

令和2年度 調布市立第四中学校 学校評価報告書（学校長 生野 まゆみ）

学校の教育目標	
心ゆたかに 体たくましく 賢い生徒 の育成	
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像	
・生命をいつくしみ、人の尊厳を重んじる心を育てる学校	・「生きる力」を育て、個を伸ばす学校
・安全で安心な学校	

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>

	1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
自己評価	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組
	①道徳教育の充実	①見方・考え方を働かせる過程の重視	①食育・安全教育の計画的な実施
	②多面的、多角的な生徒指導の実現	②ICTなどを活用した学習活動の実施	②コロナ感染拡大防止の実施
	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)
	①校内研修を4月と11月に実施授業参観と指導・助言を12月に実施。 達成率100%	①4月に校内研修1回、他に個別の指導・助言を2回以上計3回以上実施。 達成率100%	①給食委員会の昼の放送を月12回程度、安全教育は毎月実施。 達成率100%
	②特別支援校内委員会、運営委員会を毎週実施。 達成率100%	②全教員が、タブレット端末を活用した教育活動を実施。 達成率100%	②ガイドラインを遵守し、関係機関、家庭、地域へ情報を発信して工夫して対応。 ① 達成率94%
学校関係者評価	道徳科の授業を柱として時数の確保、指導力の向上を図った取り組みは評価できる。教科化された道徳科は指導方法や特に評価が道徳教育の柱になるものであり、今後も道徳的実践力を高めるために続けてほしい。	「積極的に授業に参加した」「自分で考え・発表・意見交換した」この2項目の生徒アンケート結果がともに90%近い数字が出ているのは授業改善に向けた努力の成果であると認められた。一人1台のモバイル端末の活用を楽しみにしている。	コロナ禍で感染防止と健康維持のための実践が問われた年であったと感じる。生徒・保護者の感染拡大防止への意識・実践度が高いのは素晴らしい結果である。

学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>

	4 保護者・地域との連携	5 社会の一員として活躍する生徒
自己評価	(1) 具体的な取組	(1) 具体的な取組
	① 学校の教育活動の発信	② ボランティア精神等を道徳科で指導
	②HPを毎月1回以上更新学校評議員・学校関係者評価委員会を年間3回実施	②奉仕活動は、豊かな国際感覚の学びに代えて実施
	(2) 成果(数値目標に対して)	(2) 成果(数値目標に対して)
	① 学校の教育活動にご理解、ご協力いただいた。 達成率84%	① ルール等を守ることに大切さ、社会に貢献すること等の大切さを深められた。 達成率90%
	②HP,安全・安心メール、が情報発信のツールとして活用できた。 達成率86%	②日本以外の国に対して関心をもったり、理解を深めたりすることができた。 達成率73%
学校関係者評価	学校だよりでは、校長の思いや考え、学校の動きを知ることができた。アンケート結果の比較的高い部分を占めているのはメール機能の充実によるものと判断でき、今後も有効活用することを願う。	地域に出て触れ合うことを極端に制限された1年だったので、苦労があったと思う。逆に、コロナを通して社会の一員としての自分や世界とのつながりを実感する材料が身近にたくさんあったと思う。

人材育成・組織運営

自己評価	【人材育成】校内研修を重ねひとり一人のスキルアップを図り、個々の教員のキャリアに応じた育成が推進できた。 【組織運営】コロナ禍、これまでにない対応が求められる中、学校が地域と共に連携・協働しながら、一つのチームとして機能した。
学校関係者評価	学校の経営計画に対する教員の評価で、適切・おおむね適切が100%であったことは、校長先生のやろうとすることの適切さ、伝達の適切さが評価されたと思われる。教職員全体の意思が一つの方向を向いているときは、個々の持っている力以上の力が出る。よりよい教育ができるよう、高みを目指して導いてほしい。

中期的な経営目標の達成状況

5つの中期的な経営目標に関する評価については、生徒・保護者・教員を対象に質問項目を合わせたアンケートを実施した。さらに、教員対象に行った別の評価を合わせて分析したところ、①から⑤のすべてにおいて肯定的な回答が73%以上だったので、おおむね目標が達成できたと判断できる。③健やかな体(体)では、今年度特に新型コロナウイルス感染症拡大防止対策が求められたが、生徒・保護者・学校・地域が一丸となって協力できたので、学校での濃厚接触はゼロであった。一方、⑥社会の一員として活躍する生徒の育成では、計画していた、ボランティア活動や地域との連携事業が新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施できなかった。その代替えとして、カリキュラムマネージメントの視点で関連事項を道徳科、総合的な学習の時間、特別活動等で補い、学びを深めることができた。

次年度の重点課題

課題	豊かな心(徳) 道徳教育の充実 確かな学力(知) 新学習指導要領で求められる主体的・対話的で深い学びの実現 健やかな体(体) 安全教育の充実	タブレット端末の活用
----	--	------------